

館報

卒園・卒業
おめでとう!



3月号

No. 803

令和5年
(2023年)

やまがた



感じたものを伝えたい

いとう こうへい
伊藤 光平さん

「地域に密着した仕事で、地域の皆さんのお役に立ちたい」

そんな思いからテレビ松本で働いている光平さん。もともとは放送設備のメンテナンスなど技術系の仕事をしてきたが、昨年よりYCSで映像制作の仕事を担当されている。番組をつくる上でのこだわりをお聞きすると「自分が見て感じたものを、そのまま伝えたい」と熱い思いを語ってくれた。

(2月15日 トレーニングセンターにて)

働く姿

告知板

令和5年度 山形村生涯学習カレンダー



山形村
編集・制作：山形村生涯学習推進協議会

令和5年度 生涯学習 カレンダー 配布！

●連絡班加入世帯の方

この館報と一緒に連絡長から配布されます。

●連絡班未加入世帯の方

教育委員会から送付されるハガキと引き換えでトレーニングセンター窓口にて無料で1部配布します。

●二世帯住宅など、2部以上欲しい方

トレーニングセンター窓口で1部450円で販売しています。

＼こちらからチェック／

生涯学習カレンダーは
山形村公式
ホームページでも
公開しています



3年ぶりに関西方面への修学旅行が実現しました。本物の寺院や仏像の見学、扇子の絵付け体験で日本の文化に触れ、またユニバーサルスタジオでは仲間との大切な思い出を作ることができました。

鉢盛中学校 2年生修学旅行

2月20日(月)～22日(水)

- ・1日目 奈良(法隆寺・興福寺・奈良公園)
- ・2日目 京都(クラス別行動)
- ・3日目 大阪(ユニバーサルスタジオジャパン)



今期の 未来塾が終了

2月25日(土)、トレーニングセンターふるさと大ホールにて、今年度最後の未来塾が開催されました。(全18回開催)

前回の未来塾は大雪のため中止となつてしまい、この日は約1か月ぶりの開催。午前中の小学生の部では、自学自習だけではなく、毎回信州大学の学生さんが、いろいろな実験工作を考えてくれていますが、今回はストローヒコキの作製を行いました。修了式に見えられていた信州大学の小山茂喜教授は「覚える、考える、作り出すだけでは勉強にならない。なんで飛んでいるのだろう？なんでこのような動きをしているのだろう？ということを考えてほしい」と子どもたちに伝えていました。

学習だけではなく多様な経験ができた子どもたちからは、1年間の活動をやり遂げた充実感と自信に満ちた表情が垣間見えました。



Yふるさと レンジャー隊 修了式

『川』の観察を振り返る

身近な自然を観察し魅力を発見・発信するYふるさとレンジャー隊が2月26日(日)、トレーニングセンターにて、本年度最後の活動と修了式が開催されました。

この日の参加者は15名、折り紙でカエル・ミズドリ・カニを折って1年間の感想を書き込み、活動を紹介する模造紙を製作した後、次年度のテーマについても話し合いました。

修了式では、教育長から修了証となるピンバッジを受け取った5名の小学生レンジャーの皆さんは、誇らしげな表情で会場を後にしていました。



山すそ

4月から息子が6年生、そして娘は年長になる。いずれも学校や保育園の最後の年になる。親として日々の成長をしっかりと見てきたつもりだが、あつと言つ間に大きく成長したように感じてしまうのは何だか嬉しくもあり寂しいものだ。ふと2人の入学、入園当初を振り返つてみた。まず息子は、学校まで約1.5kmもの距離を重いランドセルを背負い毎日登校できるのかな？内気な性格だけど友達ができるのかな？娘の方は母親や家が恋しくなつて保育園が嫌いにならないかな？毎日保育園で泣いていたらどうしようか？なんて2人とも不安だらけの毎日だったことを思い出す。そんな2人もいつの間にかそのような心配はいらなくなつていた。息子は平気で重いランドセルを背負い友達と走って登校するようになっていた。娘も毎日楽しんで保育園で遊んでいるようだ。子どもが成長することはだんだんと親の手を離れることであり、子ども好きの私にはやはり寂しさの方が大きく感じてしまう。そしてこの最後の1年はより毎日を大切に過ごしたい、気持ち大きくなった。親子それぞれ忙しい日々を過ごしているが、心だけは失くさないように子どもたちとしっかり向き合つて過ごしたいと思つた3月である。

た。行ってみたいと思います。」と話していました。これを機にの公園に行きたくらいに思っています。」と話していました。



小学2年生の保護者の笹川彩さん(上竹田)は「山形村にこんなに公園があるなんて知らなかったです。展示のおかげで親の私も勉強になりました。これを機に行きたい公園はない公園に行きたくらいに思っています。」と話していました。

山形っ子 学びの展示発表会

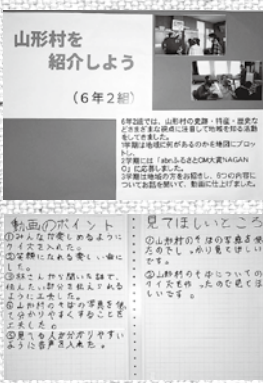
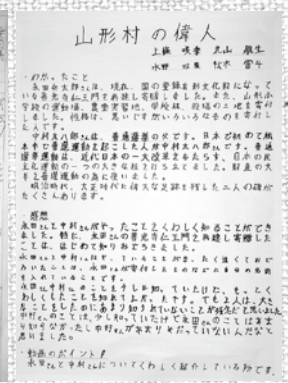
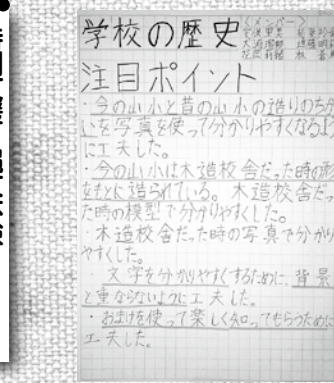
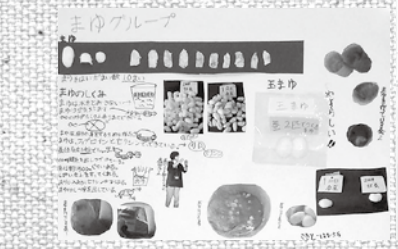
2月17日(金)から26日(日)と3月1日(水)から10日(金)の2回に分けて、山形村トレーニングセンターで『山形っ子学びの展示発表会』が開催されました。前半は1・2・5年生、後半は3・4・6年生と特別支援学級の児童の、今年度の学習活動の様子をまとめた資料がロビーに展示されました。訪れた方は子どもたちの活動内容をそれぞれじっくり読み込んでいました。

1年生 ブルーベリー狩り

2年生 公園調べ ホテル

3年生 福祉体験・おやき

6年生 学校と地域



卒業おめでとう！



6年1組 37名

担任 野本 雅代 先生

	豆中距離の陸上選手になって 世界をなりたい 赤野希心	ワールドカップ優勝に近づけ てくれるようなプロサッカー選手 になりたい 稲垣憲	水かのためになる 仕事をやる 小林悠月	外国に行く色々な 場所や店に行ってみ たいです。 小澤椿	有名なプロ家とプロ になりなせ 小野佳月	海外に住んでみたい 土橋蒼人	りんご農家にならなりたい。 土橋蒼水
もやしをいっぱい 食べられる生活にしたい 桐原慧	好きな有名人に二回は 会ってみたい！ 小林歌太郎	医りよう関係の仕事で 人を助けたい 小林咲希	医療関係の仕事について 病気などで困っている人たち を助けたい 任藤こほる	美容師の仕事でたくさん の笑顔を作りたい 佐藤ゆい	一人ぐらし 佐野鏡士	プロサッカー選手になって 歴史に残るすごい 選手になる 佐野春馬	自分の好きなプロサッカー 選手になれるような 世界一のストライカー になる！ 堀川楓
看護師になって 人を助けたい 塚原和奏	看護師の仕事 人も笑顔にしたい 中野航希	海外に行くと日本にない食べ物 を食べてみたい 南波椋偉	障害の子たちをたすけられ るような仕事に なりたい！！ 泉菜	ドックトレーナーになっ てかっこいい犬を 育てたい。 西取心咲	看護師は 多くの人を助け られる人になりたい 病千菜	スキーで回は大きな 大会に出たい！！ 林春翔	有名サッカー選手にな りたい！！ 有名サッカー選手にな りたい！！ 有名サッカー選手にな りたい！！
大谷選手を超え る三刀流になりたいです。 水谷 遼馬	読者を楽しませる 漫画家や小説家になりたい 水谷碧子	バレーボール選手になっ て世界を活躍したい 宮城颯	プロサッカー選手になっ て見ている人たちを喜ばせるよ うな選手になりたい。 宮澤陽太	研究者になっ てカサの秘密を解明したい。 百瀬立西	パティシエになっ て野菜を使った スイーツやデザートを作るの が大好きです。 百瀬星結	思いこみかまを 敬言家 になつた 山本俊介	一日飯を食べていける サライクスン 山本俊介
ユークリバーになっ てお友達といっぱい いっしょに親孝行を できるようにしたい。 藤澤朱香	医療関係の仕事に ついて病気で困る人 を助けたい。 藤澤朱香						

将来の夢

山形小学校 6年生



6年2組 35名
担任 横川 晋平 先生

<p>シェフになる 太田蒼介</p> <p>遠藤明莉 動物病院で働いて、世界中の犬や猫を救いたい</p>	<p>ウエディング フランナーになる 岩井琉海</p>	<p>笑顔いばの明るく先生 大瀬瑠都</p>	<p>インテリア デザイナーになる 稲葉 玲愛</p>	<p>イラスト 関係の仕事 をしたい 安原 里美</p>	<p>お父さんとお母さんのお手伝いをするときに、大塚里で働くこと 青木 奈々</p>
<p>サッカーに関する仕事 大月竜路</p>	<p>養護学校の先生になる 大月利紗</p>	<p>通訳の仕事をした したい 萩上舞桜</p>	<p>イラスト関係の仕事に就く 川澤楓</p>	<p>CLで優勝に貢献できるような選手になりたい 小野温人</p>	<p>eスポーツの選手 小尾結人</p>
<p>日本で指折りに入るルアービルダーになる 小林大地</p>	<p>歴史を勉強し歴史を教える人になりたい 海田見太陽</p>	<p>人を助ける仕事 田中太智</p>	<p>バスケットの選手 中島空馳</p>	<p>穏やかな音が好き 中村廉</p>	<p>医療関係の仕事をしてみたい 野口陸斗</p>
<p>ゲームにかんけいのあるお仕事をやりたい。 松本雷斗</p>	<p>スポーツ関係の仕事 丸山航生</p>	<p>絵に関係する仕事をした 水野双葉</p>	<p>安定した職業に就職する 宮川明日美</p>	<p>ボランティア 宮澤樟</p>	<p>マンガのGKになる 望月陽斗</p>
<p>生き物を研究する仕事に就きたい 和田才典</p>	<p>カメラマンになり美しい写真をとる 林蒼馬</p>	<p>eスポーツの選手になる 原誠之助</p>	<p>世界でかつやくする医者になる 平井美月</p>	<p>プロゲーマー 上條翔葵</p>	<p>eスポーツ選手になる 上條咲季</p>



今月の声

未曾有のウイルス
期間からの帰還!

まるやま ともひこ 丸山 智彦 (下竹田)

私が館報部員をやるとなった時、知らない人に声をかけての取材活動やページの作成、文章なんて中学生での反省文以来で、(いつも悪さしては原稿分5枚書けといわれ)とても大変だなあと感じました。それでも「頼まれごととは試され時」と自分を奮起させて己の成長のために1年目から楽しく活動させてもらいました。2018年は体育部が花形の地区のスポーツ大会や村民運動会、社会部主催の旅行や催し事、公民館など地区での企画が沢山あり取材活動の名目で参加させてもらい村民運動会では普段なら近づけないグラウンドトラックの中での写真撮影、料理教室の取材でおいしい料理をつまんだり、いい意味での公私混同で知り合いも沢山で自分の成長になりました。2年後のコロナウイルス発生により社会全体が閉鎖的な状況で取材もままならない事態を2か月ほど経て、部員一同館報を存続させるべく何とか記事を作り上げ昨年は全国での表彰にもつなげることができました。今後はマスクなど規制が緩和され、あの頃のような日常がやっとなんと帰ってきます。春のスポーツ大会・じゃんずら・村民運動会・文化祭、楽しいことがまわってくるはず!



濃厚で面白い
5年間でした

おおしお かずみち 大塩 和道 (下大池)

何度も編集部に誘われ、自称理系で文を書くのは小学校の頃から苦手だった私には無理だろうと断り続けていましたが、断り切れずに引き受けたのが2018年3月でした。緊張しながらも編集会議に行ってみると、そこには部員同士があだ名で呼び合い、年代を超えて和気あいあい意見交換している空間がありました。その日から5年間、編集部員を務めさせていただきました。初めて一人で取材に行ったとき、現地に誰もいなくて先輩部員に「事件です!」とメッセージを送って助けを求めたことも、今となってはいい思い出となっています。コロナ禍での活動停止、節目となった800号の発行、館報コンクールの入賞など、苦勞がなかった訳ではないですが、記事作成や取材を通じての体験、学び、出逢いなど、濃厚で面白い経験ができました。自分自身も少しは成長することができたのかなと思います。ご協力いただいた方、また記事を読んでいただいたすべての方に御礼申し上げます。ありがとうございました。

健康活動講座

2月12日(日)、トレーニングセンターにて、下大池分館主催の「健康活動動機づけ講座」が行われました。春から始まったこの講座も4回目を迎え、この日が最終回となりました。今回も松本大学地域健康支援ステーションの方を講師にお迎えし、体力測定の結果の説明や、ウォーキングの基本姿勢などのおさらい、全身を動かすストレッチなども織り交ぜ、楽しい時間を過ごしました。

筋肉をいじめる

2月24日(金)から週1回5回にわたり、スポーツ推進委員会主催の「インナーマッスルトレーニング講座」がトレーニングセンターで開催されました。身体の奥に位置する筋肉のことをインナーマッスルと呼び、その筋肉を鍛えることで身体を内側から支える力が強くなり姿勢の改善に期待でき、関節を正しい位置に安定させるため、腰痛改善などに繋がります。筆者が取材した3月10日(金)の回は、参加者11名が講師の指導のもと、筋肉をいじめる(業界用語)トレーニングに励みました。



おめでた字・題
風 (敬称略)

- 梯(カケシ) 瀨(ミオ) 嶺 歌織 ・ 上竹田
- 田中 絢都(アヤト) 和寿 ・ 小坂
- 井隼(イヅナ) 光(ヒコ) 直人 ・ 中大池
- 中村 灯伽(トウカ) 大地 麻紀子 ・ 上大池
- 塩原 彩乃(アイナ) 勇樹 真理子 ・ 小坂
- おくやみ
- 上條 好和(ヨシワ) 87歳 ・ 上竹田
- 上條 八江子(ヤチエ) 91歳 ・ 中大池
- 上條 あい子(アイコ) 97歳 ・ 中大池
- 上條 榮(エイ) 91歳 ・ 下竹田

ドライフラワーリースを作ろう！講座 第3回「春のリース」

2月18日(土)・19日(日)の両日、トレーニングセンターにて、ドライフラワーリースを作ろう！講座(全3回※追加1回)最終回となる『春のリース』作りが行われました。第1回が『クリスマスリース』、第2回が『正月飾り』でしたが、今回の『春のリース』は空気浄化作用のあるユーカリを加え、思い思いに花材をアレンジして個性豊かで素敵な作品に仕上がりました。筆者が取材した18日の参加者は小学生の親子など16名。創作の楽しみは人を和やかにさせるのか、穏やかに楽しげな雰囲気が会場を包みました。



いきいき塾 公民館講座

活き生き塾 活動記録



皆さん、『ポッチャ』というパラスポーツはご存じでしょうか。『ポッチャ』とは、ジャックボールと呼ばれる白色のボールに、赤・青それぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたりすること、いかに近づけるかを競うパラリンピック正式種目です。

そんな近年大注目のポッチャ体験会が2月14日(火)、活き生き塾で開催されました。ポッチャを体験するのは今回が初めてでしたが、参加者の皆さんは思い思いにボールを投げて白熱した試合が繰り広げられました。



【補足】長野県が『スポーツを通じた共生社会づくり』を目的に、県内全市町村へポッチャ用品を貸与する事業により、山形村には2セットが貸与されています。トレーニングセンター窓口で無料貸出を行っていますので、ぜひこの機会にポッチャを体験してみてくださいいかがでしょうか。

【お問い合わせ】山形村教育委員会
☎0263-98-3155

みんなの人権 99

映画「桜色の風が咲く」の余韻～「酸欠状態の心」に吹く新鮮な風

風の風景 50

◇1月のある日、村内のシネマハウスで「桜色の風が咲く」と言う映画を観る機会がありました。この映画は、全盲ろうの教育学者・福島智(さとし)東京大学教授の半生を描いた作品です◇9歳で視力を失い、18歳で聴力も失った福島さんは、母親令子さんの考案した指文字を使ってコミュニケーションを図りながら、今もバリアフリーの世界を築くための提言を続けておられます(優の風景48号 参照)◇次々と襲ってくる障壁に苦悩し格闘する智さん。そんな彼に、母親として何もしてやれないもどかしさに苦悶しながらも伴走し続ける母・令子さん。家族全員の苦悩。そんな中、東京の盲学校に入学した彼は、そこでの点字読書や友人との屈託のない青春の日々の中で、自身の自立と聡明さを開花していきます◇その最中に、智さんは今度は聴力をも失います。光も音も失ってしまった彼は「僕から世界が遠ざかって行く」と絶望の淵に追い込まれ、母と共に苦悶します。そんな時、幼かった智さんがかつて入院中に知り合った年上の視覚障害者・矢野さんと再会し、自分の苦悩を初めて他人に吐露します。矢野さんの問い「見えへんというのはどういうことか、聞こえへんというのはどういうことか」この問いかけは福島教授の生涯の研究テーマ『障害とは何か』にも連なる重たい言葉になりました◇と同時に、母令子さんの意識も「障害のある息子の世話をする」母親から『彼の人生の応援者』としての母親に変容していきます。その関係性の中から、「指文字」の工夫も生まれました◇母を中心に支え合う家族の、無償の愛、書物や友人との出会い、人生の先輩の助言や励まし。幾つかの盾(シールド)に支えられながら逞しく生きる『日本のヘレンケラー』福島智さん。満開の桜並木を歩くこの親子に「咲く」桜色の風は、吉野弘の詩の一節「生命は、その中に欠如を抱き、それを他者から満たしてもらおうものだ」を地で行くような、「人間存在そのものへの讃歌」でもあるように感じました◇コロナ禍や物価高ウクライナでの戦争やトルコ大地震など、息苦しい現在を生きる「酸欠状態」の私たちに「新鮮な空気」を送ってくれるような内容に、村の人権に関わって考えさせられることの多い映画鑑賞となりました。

(令和5年3月 M. H. 記)

系車^⑮

山形村の文化財に関する情報などを紹介する「ミニ・糸車」。今回は、拡大版としてこの春村内各所で行われた御柱のお祭りについて紹介します。

長野県を代表する有名なお祭りといえはたくさんあります。多くの方が真つ先に思いつくのは御柱祭ではないでしょうか。

諏訪大社の式年造営のお祭りである「式年造営御柱大祭」(通称「御柱祭」)は、7年目ごとに1回、諏訪大社の上社・下社それぞれの境内に4本の巨木を建てるお祭りです。地元諏訪地域だけでなく、多くの人を虜(とら)りにしている魅力的な御柱祭と圧倒的な迫力でそびえ立つ御柱ですが、実は我が村「山形村」にもあるのを皆さんご存じでしょうか。

山形村の御柱は、村内に全部で5箇所建立されています。実施年の違いや例外はあるものの、諏訪大社と同様に7年目ごとに1回の御柱祭が地域の伝統行事として伝わっています。令和5年は1月〜2月にかけて、上大池、小坂、中大池で行われました。



クレーンで持ち上げられる御柱(③中大池)

- ① 上大池…1月15日(日)
- ② 小坂本殿上・本殿下…2月5日(日)
- ③ 中大池野際・上手・中村…2月19日(日)



↑里曳き(①上大池) ↓皮むき(②小坂)



御柱祭では、事前に山から切り出した新しい御柱となる御神木を曳き(里曳き)、建立場所についたところで皮をむきます。皮をむき終えたら長さを調整し、先端部分を独特の形に整える冠落しをした後、御幣を付けて建立します。これとは別に、前回建てた御柱を引き抜く作業も行われました。新しく建てる御柱は前回のものより少しでも長くしなくてはいけないという決まりがあるそうで、いずれの御柱も慎重な計測のもと長さが決まりました。今回は3箇所とも重機を使って建てられ、大きな御柱がクレーンで徐々に吊り上がっていく様子は迫力満点の光景でした。かつてはこれを全て人力でしていたわけですから、驚くとともにその苦勞が偲ばれます。

先行研究によると、御柱祭は長野県内で現在200を超える件数が確認されています。これはあまりに多すぎて調査ができない諏訪地域6市町村を除いた数ですが、県内の多くの地域で御柱祭が行われていることが分かります。一方で中信地域では山形村のほか松本市、塩尻市、麻績村、筑北村でしか確認されていません。特に山形村では神社の境内ではなく道の辻に建て

られており、これは山形村だけにみられるものだとされています。さらに、道祖神が寄り添うように並んでいることも特徴として挙げられ、御柱と道祖神の関係性も指摘されています。松本平では、御柱祭とは別に飾りが付けられた柱を建てる道祖神のお祭りがありますが、山形村の御柱はこの影響を受けているのではないかとはいわれています。いずれにしても、山形村の御柱は他にはみられない独特な形態で行われており、今後の研究によってその謎が解明されていくことが期待される貴重な事例であるといえます。

御柱には、地域の安全や繁栄の願いが込められています。人びとの祈りの気持ちを受けてまっすぐに立つ御柱の姿に、ぜひ注目していただければと思います。

今回の調査・取材では、たくさんの方にご協力をいただきました。この場をお借りしまして御礼申し上げます。



中大池下村・小坂東殿の御柱



上竹田御判形の御柱

